第17回清水町みらい会議要旨

〇開催日　令和６年３月21日(木)
〇会　場　清水町役場４階　第１会議室
〇出席者(委員)
・岩﨑　清悟　座　長　(静岡ガス株式会社元取締役会長)
・植田　勝智　委　員　(ファルマバレーセンター　センター長)
・川村結里子　委　員　(株式会社結屋 代表取締役)
・鈴木　誠一　委　員　(株式会社エステック　代表取締役)
・長倉　一正　委　員　(有限会社長倉書店 代表取締役)

議題１：こうじを活用したまちづくりについて

※　川村委員から、清水町商工会を中心に今後取り組んでいく「清水町こうじプロジェクト（仮)」について、ご説明いただいた。

１　プロジェクトの概要について

・　本プロジェクトは、令和６年度から始まる取組であり清水町商工会が中心となって、こうじを活用した地元飲食店によるメニューや特産品の開発、さらには食育活動を通じた取組など地域の愛されるブランドを作っていきたい。
・　町では、100 年以上前からこうじの歴史が続いており、こうじを使って醤油や味噌を家庭で作っていた家庭もあるなど町に根付いた文化であった。
・　幕末から明治初期にかけては、こうじ製造業者が７軒あったとのことだが、現在は３軒の業者が事業を継続していることから、こうじの歴史を伝えながら清水町ならではの食文化を広く知ってほしい。

２　プロジェクトの推進について

・　趣味のグループで味噌づくりを行っている方もいることから、新しいコミュニティの一つになる。また、味噌づくりには場所や道具が必要となるが、公民館等を活用することで地域コミュニティの行事にもなる。
・　現在、発酵食品が注目されており、時代にあった展開が期待できるが、こうじ自体を特産品として取り扱うのは難しいことから、どのようにストーリーをつくっていくかということが重要である。
・　町の中でも、こうじを知らない方もいることから、まずは広く知ってもらえるような取組を行うとともに、気軽に地域の方がこうじに触れられるようなきっかけづくりが必要である。

・　こうじの歴史において、柿田川の水はかかせないものである。柿田川を前面に押し出すことで、ブランド化を図ることができる。
・　広く知られるには、実際にモノの販売が必要だと感じる。例えば、甘酒を清水町で作られたこうじと柿田川の水で作ったものとして販売なども良い。甘酒は、飲む点滴とも言われており、熱中症対策で飲む方も増えている。
・　美容にも良いとされていることから、化粧品等を作るのも良い。
・　最初から加工品を新たに作り出すのではなく、こうじ加工品を使用したメニューを飲食店等に取り入れてもらうと広がりやすいのではないか。
　また、加工品を作るのであればまずは体験型ものづくりとして地域の方に触れてもらう方法もある。
・　町内でつくられるこうじの生産量は多くないことから、希少価値が高いものである。味噌や醤油など他業者が大量生産できるものとは異なる付加価値をつけていくことで、販売力も高まるのではないか。
・　教育分野では、給食に利用されると子どもたちの興味関心につながる。食育や文化の学びとして、こうじの歴史を伝えてもらいながら、実際食べてみることで子どもたちにも広く知ってもらうことができる。

議題２：新年度の主要施策について

※　新年度の重点分野「みらいへの備え」について事務局から説明した。

１　人口減少社会への対応とアフターコロナを見据えた施策の展開

・　市街化調整区域内の土地利用に関する基本方針を策定するとのことだが、現状町内には市街化調整区域が多く、道路等の整備ができないだけでなく計画性のない開発が進んでいる。平坦で住宅に向いている用地も多いことから、活用できるようになれば、首都圏からの移住者のニーズにも合致するため早期に進めてほしい。
・　県では、東部の 12 市町と連携して超高齢社会への理想郷づくりとして、医療田園都市（メディカルガーデンシティ）構想を策定している。この中で、県・市町がそれぞれ行う行動計画として 12 項目が定められており、県は市町が行動するに当たって壁となる規制の緩和策を検討するとしていることから、市町が主導する用地転用についても県に相談してほしい。
・　町を周遊させるような施策を考える場合には、寄りたいと思わせるスポットを用意し、スポット間をゾーンで考えていくと良い。ゾーン内の導線など具体的に検討することで、どのような整備が必要となるのかが見えてくる。

２　災害に強いまちづくりと地域公共交通の活性化

・　地域公共交通計画の策定が予定されているが、バスの本数は減ってきているように感じる。公共交通施策は、高齢化が進む社会への対応として必要不可欠なものであることから、路線バスのターミナル機能や循環バスの運行形態見直しを進めてほしい。

・　自動運転バスの実証実験について、本格的な運用や完全無人化の実現に向けては課題が多くあるものの、来年度も実証実験を継続する予定である。

・　自転車ネットワークの構築に当たっては、自転車だけでなく歩行者にとっても利用しやすいようなものになると良い。

・　柿田川公園の整備について、安全安心な空間の提供も必要だが、柿田川を身近に感じられるような仕組みや柿田川に生息している動植物等に関心をもてるような仕掛けがあると良い。

３　教育環境の整備と子ども子育ての支援の充実

・　新たに幼稚園や保育所の全クラスにタブレット端末を導入し、まずは職員の負担軽減を図るとのことだが、ＩＣＴ化を進めることで情報をすぐに取得できるようになり効率化につながることから、積極的に活用してほしい。

・　海外を見ると技術者を育てるなど特色ある教育が行われ、経済成長を続けている国がある一方で、日本では、私立学校であれば体験型の教育などを通じて生きる力が培われるような教育を行っているところもあるが、公立学校では難しい。教育の抜本的な見直しをすることで、日本の未来につながっていくのではないか。